

提案書:電気理論基礎 1 直流回路コース改善提案

1.提案概要

今回提案する改善案は、①**インストラクショナルデザイン（以下ID）に基づくコンテンツの整理整頓**
②**ご要望のあった2点についてなるべく低コストで効果の上がる方法の提案**、の2点を重視しております。

IDに基づく設計として、まず教材の入り口と出口を整理し「前提テスト」「事前テスト」の追加をいたします。これにより、学習不要な社員と学習が必要な社員の振り分けができ、社員の個人差への対応が可能となります。また、学習目標の設定の見直しを行い、実際の業務にどのように役立つのかを明示することと、ある程度の知識を持つ社員の知識を利用して新入社員ごとの相互学習効果を高める改善を提案いたします。

2. 現状分析の結果

インストラクショナルデザインの視点からコンテンツをチェックし、以下のような分析をいたしました。

概要

コンテンツ内部の項目立てやコンテンツ内容について分かり易くまとめられているが、学習コンテンツの位置づけ(入口と出口の設計、コンテンツ学習による学習目標)が曖昧であり、その設計見直しが必要である。

詳細

(1) 出口:学習目標の設定と評価方法の妥当性について

学習目標は提示されているものの、学習目標を達成した結果どのように実務に結び付くのが不明である。また、「～学習します」と目標設定が曖昧である。コース概要で「電機関連資格試験に出題される項目に回答出来る様にする」と記載されてはいるが、学習開始後にそれを見る事は出来ない。各節ごとのテストで学習したことは確認できるが、事後テストで教材の目標をマスターしたかどうかは言えないと考えられる。

(2) 入口:成人学習理論とターゲット層について

学習開始に際し中学校数学の知識を要すると記載はあるが、どの内容なのかなど詳細が不明であり、かつ前提知識が本当にあるのかが不明で、教材をやる必要がない人と必要がある人を判別する仕組みがない。

(3) 構造:コース要素からの項目立てについて

基本的に構造は分かり易く、適切な項目立てとなっている。

(4) 方略:学習目標の達成を支援するコンテンツの工夫について

イラストが動くことにより、学習内容を理解はしやすくなっている。ただし、ナレーションのスピードが遅いため、不要な際にOFF出来るようにするなどの工夫が必要と考える。苦手な項目などを集中して練習するためのリンクの設置や、事後テスト受講前の仕上げ練習の機会を創設することで更なる学習効果の向上につながると思う。

(5) 環境:適切なメディアの選択とサポート体制の確立について

「Q&A」から質問が出来る様になってはいるが、それ以外のサポートは見当たらない。現学習目標に対するメディアの選択(イラストによる動画)は適切と考えられる。

3. 提案の方向性

IDの視点を踏まえた現状分析の結果から、コンテンツ内容自体に大きな問題はなくコンテンツ周辺の整備が最も効率良く、かつ効果が高いと判断いたしました。また、学習自体の魅力を高める工夫として、学習目標の明確化(実務レベルにおいて)、学習者同士の相互作用(交流)を図るため、事前テストの合格者を学習コンテンツのチューター(Q&A対応など)として活用する事を考えております。

また、ご要望にはありませんでしたがコンテンツ内の「自分のペースで学習できる」メリットを最大限に活かすためナレーションのON・OFF機能など学習環境の整備についても着手出来ればと考えております。

5. 図

(※今回はタスク4の提出分を参照ください)

6. RFP 項目の検討結果

(1)新入社員の個人差への対応(特にある程度の知識のある者の研修時間短縮)について

「前提テスト」「事前テスト」を作成、運用することにより合格者は学習コンテンツでの履修免除、不合格者のみ学習コンテンツでの学習を行う形を提案いたします。また、学習免除者については単に学習時間を減少させるのではなく、学習コンテンツのQ&A対応などを行ってもらうことにより、新入社員(学習者)通しの相互学習効果の向上を図る事ができると考えております。

(2)社員のやる気を高めるようなカスタマイズあるいはやる気を持たせるような活用法について

学習目標の設定を見直し、「電気関連資格の取得に向けた学習」であることを明示することや、「実業務に〇〇のように結びついている」といった内容を明示することにより、学習コンテンツでの学習の意味を明確化することにより業務との関連性はっきりさせ、学習の魅力を高めたいと考えております。

7. コンテンツの利用・活用方法

学習コンテンツは基本的に現状で運用します。変更・活用方法として以下2点が挙げられます。

- ①「前提テスト」「事前テスト」実施の追加
- ②両テスト(前提・事前)合格の学習者を履修免除する代わりに、その他の新入社員のQ&A対応者とする役割を与える

8. 提案の理論的背景

今回提案の理論的背景として、ARCS モデルが挙げられます。

ARCS(アークス)モデル:学習に対してやる気が出ない理由を4つの側面からチェックし、それに応じた作戦を立てると効果的であるとする動機づけに関連するモデルである。注意(Attention) 関連性(Relevance) 自信(Confidence) 満足(Satisfaction)の4側面の枠組みがある。

今回は【注意】【自信】の側面については問題がないと判断し、【関連性】と【満足】に関する側面のアプローチを提案いたしました。

以上